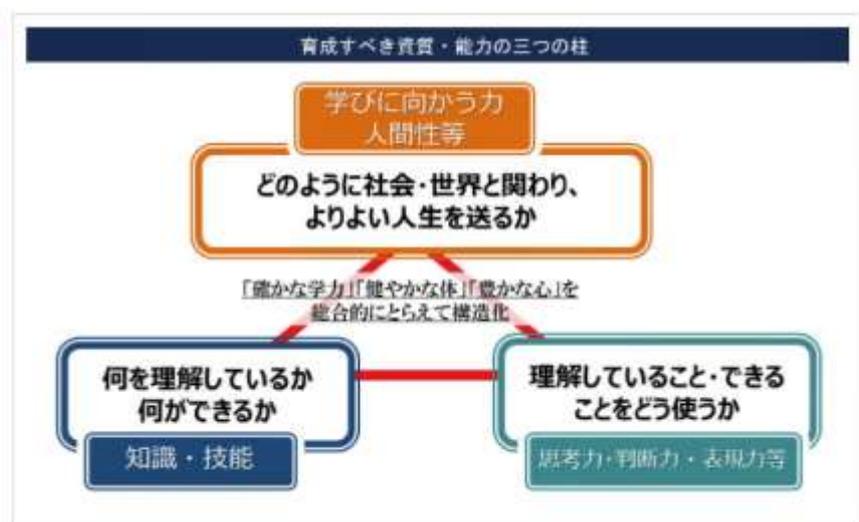


「全国学力・学習状況調査」から見る「新しい学びのあり方」

- 4月に実施予定であった令和2年度全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症により中止とされましたが、本市においては、提供を受けた調査問題の活用として、7月から8月にかけて教育課程に位置付けて調査を実施し、各校において採点して、その結果や質問紙調査の回答状況を市教委で集約、分析し、各校に情報提供を行ってきました。
- 各学校には、調査結果から、課題の分析及び改善策を検討し、学校改善プランを作成するとともに、全教職員で授業改善・学力向上に向けた取組を組織的・計画的に推進するよう指導しているところです。

1. 全国学力・学習状況調査と学習指導要領について

- 「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」（平成29年3月）では、「全国学力・学習状況調査の調査問題については、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それを教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討を進める。」としています。
- 新しい学習指導要領では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、どんな状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に再整理されており、これらの資質・能力の3つの柱は相互に関係しあいながら育成されるものという考えに立っています。
- 平成31年度以降の調査では、新しい学習指導要領の考え方への各教育委員会や各学校の理解を促すため、「主として『知識』に関する問題（A問題）」と「主として『活用』に関する問題（B問題）」の区分を整理して、一体的に調査問題が構成されました。
- 調査問題は、教員による指導改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つとの視点から、学習指導要領の考え方や各教科の目標及び内容等に基づいて作成されています。



2. 令和2年度調査について

(1) 教科に関する調査

- 北海道教育委員会は、全国学力・学習状況調査を活用した検証改善サイクルの確立の方策として、問題冊子を家庭学習、通常の学習指導の中で活用することや、授業や教材研究、各学校での研修会、研究授業等で活用することも例示していますが、本市においては、問題冊子を教育課程内で一斉に活用し、自校採点で学習内容の定着状況を把握するとともに、教育委員会の取組として、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題の検証・改善を図り、継続的な検証改善サイクルを確立することとしました。
- 本年度は、調査は中止とされたため、全国、北海道との比較がなく、また、調査問題が異なるため、昨年度との比較もできませんが、各学校からの自校採点結果を集計し、正答率の低い問題や無答率の高い問題を明らかにしています。

(2) 特徴的な調査問題について

- 調査問題は、新しい学習指導要領が目指す学びを具体的に示すメッセージであり、これからの授業改善や児童生徒に身につけさせたい資質・能力が見えてきます。日常的な具体的な場面を設定し、知識や技能をどのように活用するかを問う設問や、課題解決に向けた話し合いの活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする場面を設定している設問が多く出題されています。これは、新しい学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善のメッセージであると捉えています。
- 特徴的な問題の一例として、別冊の「中学校数学」の調査問題の6をご覧ください。

- この問題は、身近な場面の課題に対して、身に付けている知識・技能を活用し、対話的に解決する場面が設定されていますが、正答率が低く、無答率が高い傾向が見られます。



< 6の問題 >

- 6の問題では、比例の関係をもとに「集めた紙パックの厚さを調べて枚数を直接数えずに求める状況」を設定しています。また、「紙パック1枚の重さを28gとした場合と32gとした場合とでは、求められる紙パックの枚数にどのくらいの違いがあるか」について、グラフを用いて説明する問題を設定しています。

- (1)では、「事象における数量の関係を見だし、それを的確にとらえることができるかどうかをみる。」ものです。正答は「厚さ」で、市内中学校の正答率は72.1%、無答率は4.5%でした。

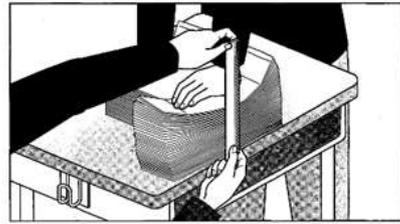
- (2)は「事象における数量の関係を見だし、考察する場面において問題解決の方法について説明する」ことを求めています。紙パック1枚の重さを28gとしたときと、32gとしたときでの求められる紙パックの枚数の違いを調べるための「グラフの使い方」を説明するものです。紙パックの合計の重さが45000gであることから、グラフのx座標が45000である点

に着目することを明示する必要があります。そのうえで、x座標が45000である点のyの値の差を求めることや、2点間のy軸方向の距離を読むことを記述する必要があります。

- 正答例は「1枚の重さを28gとしたときのグラフと1枚の重さを32gとしたときのグラフについて、xの値が45000のときのyの値の差を求める」で、正答率は36.9%、無答率は25.3%でした。

大輝さんの求め方

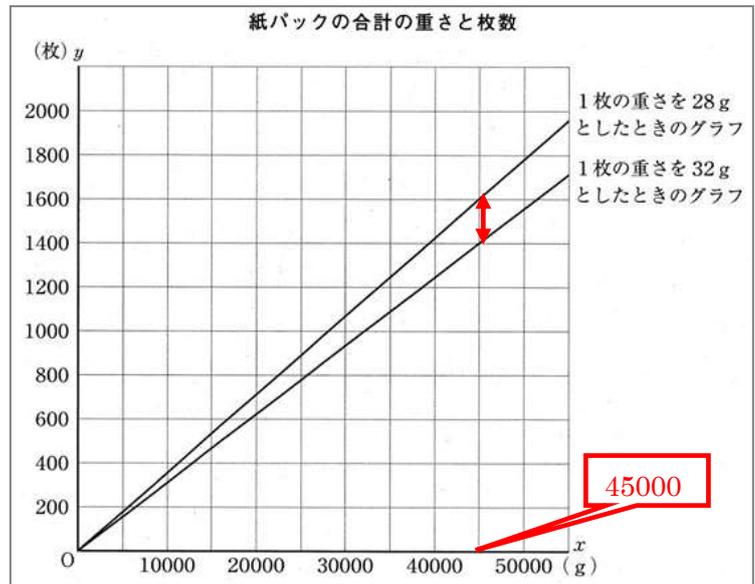
4日間で集まった紙パックの合計の厚さは16.2cmでした。



その中から取り出した、紙パック10枚の厚さは0.8cmだったので、紙パック1枚の厚さをすべて0.08cmと考えると、
 $16.2 \div 0.08 = 202.5$
 したがって、4日間で集まった紙パックの枚数は約203枚です。

菜月さんの求め方

4日間で集まった紙パックの合計の重さは5742gでした。その中から取り出した、紙パック1枚の重さは30.0gだったので、紙パック1枚の重さをすべて30.0gと考えると、
 $5742 \div 30 = 191.4$
 したがって、4日間で集まった紙パックの枚数は約191枚です。



(3) 各教科についての調査問題からのメッセージ

- 一例としてあげた中学校数学科の問題では、基礎的・基本的な知識及び技能や、その知識及び技能が、生徒が問題解決していく過程でどのように用いられているかについて明確にして出題されています。日々の授業において、数学的に問題発見・解決する過程を学習過程に反映させることが重要です。
- 育成する資質・能力の3つの柱にあるように、これからの学校教育では、「知識・技能」にとどまらず、「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」を各教科だけでなく、全教育課程を通じて横断的に育むことが求められています。

(4) 児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査からのメッセージ

- 児童生徒質問紙調査や学校質問紙調査においても、学習指導要領によって示された「どのように学ぶか（主体的・対話的で深い学び）」の実施状況を問う質問が多く見られます。

<児童生徒質問紙調査>（割合（％）は、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合）

(31) 5年生（1，2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。小学校 29.8% 中学校 32.4%

(32) 5年生（1，2年生）までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。小学校 28.3% 中学校 27.0%

(34) 5年生（1，2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。小学校 24.5% 中学校 20.0%

(36) 5年生（1，2年生）までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。小学校 44.4% 中学校 44.8%

(37) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。小学校 38.3% 中学校 42.2%

(38) 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。小学校 69.6% 中学校 73.3%

(39) 友達と話し合うとき、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて、自分の考えを持つことができていると思いますか。小学校 49.8% 中学校 60.6%

(40) 5年生（1，2年生）までに受けた授業で、調べたことや考えたことを800字ぐらい（1200字程度）でまとめたことがありますか。小学校 36.2% 中学校 21.8%

- また、学校質問紙では、「主体的・対話的で深い学び」を指導計画に位置付けて実践することを促す質問が多くされています。

＜学校質問紙調査＞（割合（％）は、「よく行った」と回答した学校の割合）

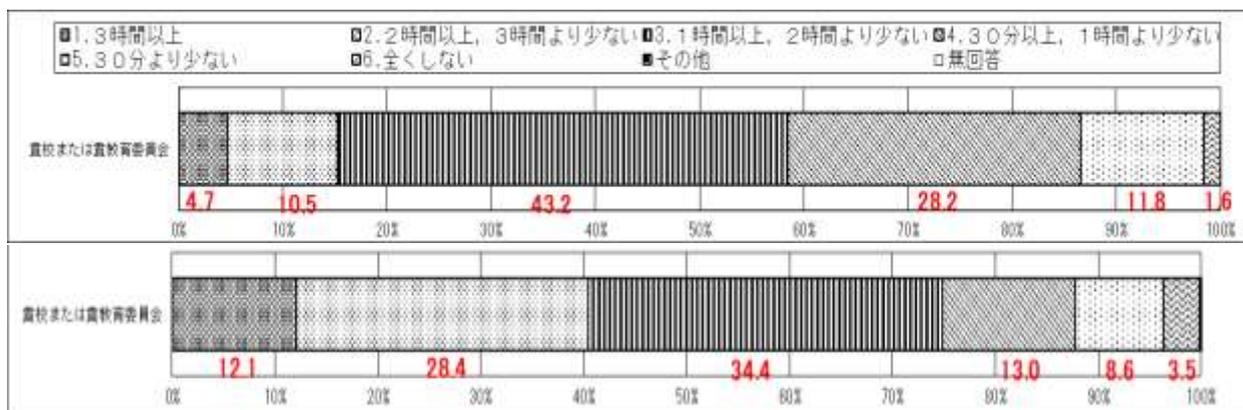
- （31）調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。小学校 60.0% 中学校 50.0%
- （33）調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。小学校 53.3% 中学校 37.5%
- （35）調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れましたか。小学校 26.7% 中学校 0.0%

（5）本市の取組

- 各校においては、自校採点後の個々の児童生徒の結果について、個票の配付や採点後の解答用紙の返却、定着の不十分な問題の解説や解き直しなど、結果をフィードバックして、指導に役立てるとともに、次年度実施学年である小学5年生や中学2年生の指導資料としても有効に活用するなど、全教職員で授業改善・学力向上に向けた取組を組織的・計画的に推進しています。
- 教育委員会としては、学校指導室及び、教員で組織する中学校学習課題検討委員会が、課題となっている領域や内容を分析して「千歳チャレンジ」を作成しているところであり、冬季休業中の宿題にとどまらず、授業での解説や、繰り返し解き直すなど、全ての学校で有効に活用されるよう準備を進めています。
- 各教科の調査問題からのメッセージで述べたように、日々の授業において、問題発見・解決する過程を学習過程に反映させることが重要であり、単に知識や技能を身につけるだけでなく、身につけた知識・技能を活用した論理的な思考や、互いの考えから学びの深化、次の学びにつなげる工夫や指導計画への位置づけなど、「どのように学ぶか」の視点をもって校内研修や教材研究を効果的に進めることができるよう、学校指導室としても各校への指導・助言に引き続き努めていきます。

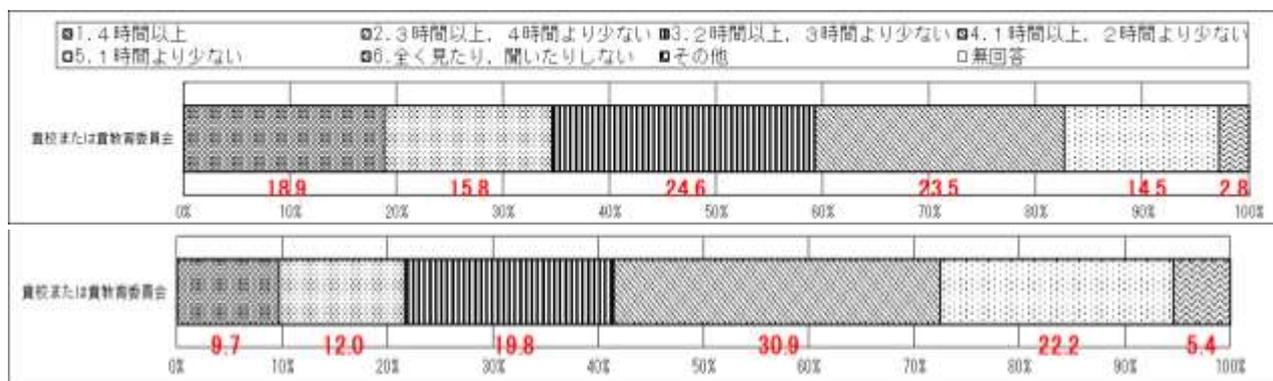
3. 児童生徒の家庭生活習慣について

(21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間を含む）（上段：小学校6年 下段：中学校3年）



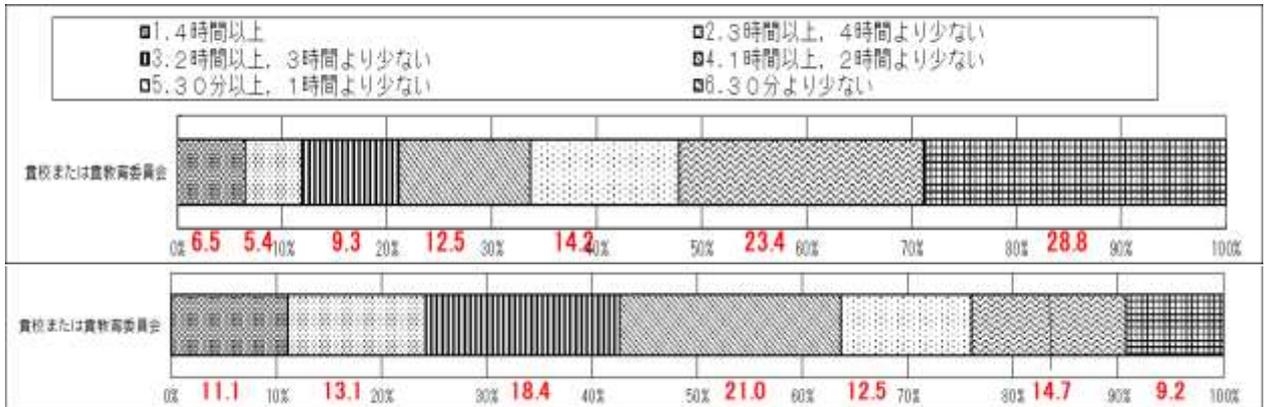
- 家庭での学習時間は、家庭生活ルールの「学年×10分+10分」を達成できていない児童生徒が多い状況です。小学校6年生では、1時間以上が58.4%、30分以下が13.4%（R1: 1時間以上 62.8%、30分以下 10.5%）であり、中学校3年生では、1時間以上74.9%、30分以下12.1%（R1: 1時間以上 65.8%、30分以下 16.5%）となっており、家庭学習の習慣化が引き続き課題となっています。

(8) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く）（上段：小学校6年 下段：中学校3年）



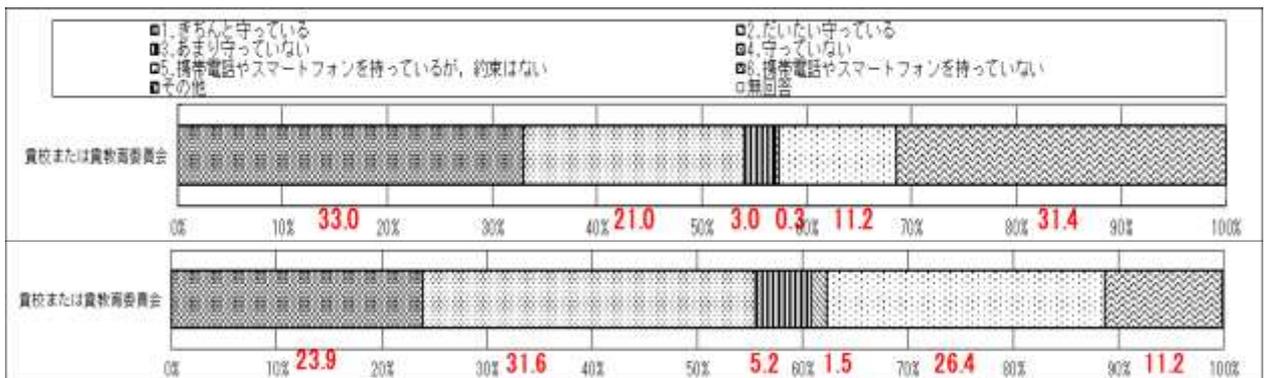
- 小学校 2時間以上 59.3% 中学校 2時間以上 41.5%

(10) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）（上段：小学校6年 下段：中学校3年）



- 小学校 2時間以上 21.2% 中学校 2時間以上 42.6%

(6) 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか（上段：小学校6年 下段：中学校3年）



- 小学校 1守っている（2だいたい）54.0% 5約束はない11.2% 6持っていない31.4%
- 中学校 1守っている（2だいたい）55.5% 5約束はない26.4% 6持っていない11.2%

- テレビやゲーム・スマートフォンを長時間使用する傾向が依然として改善されていない状況であり、学校・家庭・地域が連携して具体的な手立てを講じる必要があります。
- 教育委員会としては、児童生徒の望ましい学習習慣・生活習慣の改善は本年度の重点取組事項であり、学校と家庭・地域との連携の一層の強化や、小中連携・一貫教育を通して、より具体的で実効ある取組を引き続き推進しているところです。
- 各学校では、CS（コミュニティスクール）ボランティアによる放課後学習や、家庭学習の計画や結果を記す手帳の活用による自己管理能力の育成、家庭での読書の啓発、諸検査分析の家庭への資料提供、学校ホームページの活用など、創意ある取組が実践されています。